**すべてお任せ 2017 12 24**

**Luke 1:35-55 Pr. Hitoshi Adachi**

救い主の光が世の暗闇におかれた人々に輝きますように！

「おまかせ」という言葉をご存知だろうか？　ある友人が私たちが本当に世話になったからといって、すし屋につれていってくれた。メニューをいっさい見ることもなく、ただ「おまかせ」と言った。お店にもよるのだが、彼がしっかりと信頼できるシェフであったため、すばらしくおいしい最高のネタのおすしが出てきた。

最後にお勘定が彼に届けれらたが、彼はとんでもない請求をされてびっくりしてしまった。そのびっくりは、おいしいおすしがとんでもなく高いということではなく、とんでもないおいしいすしにもかかわらず、値段は全然高くなく喜べたのだ。

おすしやさんで「おまかせ」を注文するということは、醍醐味があり、びっくりするようなことにあふれている。　ある意味、危険でもあり、不安になってくることもあるかもしれない。しかし、どんなすしを造るか完全におまかせするシェフが、まちがいと信頼していると、必ずすばらしいサプライズになる。

さて今日の説教ではもおすしやさんでのおいしいおすしの注文の仕方「お任せ」を本当のネタとしているのではない。あくまで信仰の真髄のメタフォア（たとえ）としてお話しただけだ。さて、その真髄である、完全にお任せする模範的な人がバイブルには出てくるわけだが、誰だろうか？

だれのことを話しているかご存知だろうか？　私は今日の聖書箇所を読むたびに、ビードルズの大ヒット曲「Let It Be」を思い出す。その歌詞は、When I find myself in times of trouble, Mother Mary comes to me, Speaking words of wisdom, "Let it be" という一節で始まる。日本語に訳すなら、「困ったとき、マリアさまがやってきて、すばらしい言葉を教えてくれた、”すべておまかせしなさい。”ってね。」

Let It Be を作詞したビートルズのポールマッカートニーが本当にどういう意味でMother Maryと言ったのかは定かではない。というのは彼の生みの親の名前もメアリーつまりマリアだったから。しかし、私はこの歌詞を聴く限り、イエスの母親のマリアのことを話しているのだと思う。なので、Let It Beの意味は、父なる神の思いにすべてお任せしなさい、と教えられているように思う。　大ヒット曲は、イエスが生まれて世界が変わったという聖書のストーリから作詞されたともいうことができるのだと思っている。

マリアは結婚もしていないのに、妊娠してしまうというとんでもないことに出くわす。当時のユダヤ教の律法社会とユダヤの社会文化にあって、それはとても赦されることではなく、ヨセフとの婚約は破棄となるどころか、マリアは石を投げられて死刑となってもしょうがない状況だった。

いわば、マリアは真っ暗闇のどん底に突き落とされてしまうような事態に陥った。しかし神の言葉が天使を通じて語られる。「聖霊はあなたに降り、いと高き方の力があなたを包み、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。神にできないことは何一つない」と。

そしてマリアは応答、告白する。「わたしは主の僕です。すべて、主の思い通りになりますよう、お任せします。」ーーーーこの状況におけるマリアの言葉、マリアの態度、なにか、聖書のストーリの中で重なってくるものがないだろうか。　もちろん、今日の聖書箇所に出てきている、マリアの親戚で、洗礼者ヨハネの母親となるエリザベトにも、主に任せていた面はもちろんある。

しかし、マリアが体験した、死刑にもなりかねない真っ暗闇のどん底のような状況はエリザベトにはない。。。。　そうイエスの十字架にはりつけになるときのイエスの状況にも重なってきている面があるのだと思う。

私にとっては、マリアの祈りは、神の子イエスが十字架刑にかかる前に、オリーブ山での祈りを予兆したような祈りに思えてしょうがない。イエスは、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」と祈られた。

そして御心が成るようにという祈りは、主の祈りのひとつの大切な祈りでもある。主が教えてくださった祈りの中で、「天にまします我らの父よ、願わくは御名をあがめさせ給え。御国をきたらせ給え。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。」と祈る。

おとといが一年ではもっとも長い夜だった。北半球においては、クリスマスイブはいつもこの夜が一番長い時期にやってくる。主なる神は、これから真っ暗になっていく長い夜になっていく前に、聖書を通して一貫して教えられた「この地球上で御心がなるように。」と祈りを私たちに思い出させてくださっている。

先週の日曜日のメッセージでイスラエルの首都の問題を述べた。　その後、国連では激しい議論が行われて、国際社会ではさらなる意見の不一致が明確になった気がする。　国際社会の暗闇がさらに深まる。

そのような暗闇の中で、聖書に描かれたマリアそしてイエスのストーリーから、現代を生きる私たちにも、徹底的に御心が成るように、すべて父なる神にお任せするよう導いている。お任せすることで、マリアが賛歌を歌ったように、そして、イエスには復活があったように、びっくりするような喜びが訪れる。

今夜の礼拝が終わったあと、たとえどんなに長い暗い夜がこようが、そして世間がどんなに暗闇につつまれようが、すべてを神に委ねる私たちとなれますように、そして神が愛しておられるすべての民の救いのためくイエス・神の愛が示されますように。　クリスマスおめでとうございます。